Economic Indicators

発表日:2021 年 5 月 13 日(木)

国際収支(2021 年 3 月)

～3月の経常収支(季節調整値)は黒字幅縮小も、先月の所得収支上振れからの戻りが主要因であり、内容は悪くない～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 小池 理人(TEL:03-5221-4573)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2020	2月	30,605	20,063	2,783	6,704	▲ 3,921	18,690
	3月	19,299	10,485	▲ 4,573	▲ 523	▲ 4,050	16,198
	4月	2,065	2,643	▲ 13,087	▲ 9,172	▲ 3,916	17,172
	5月	10,685	7,717	▲ 7,721	▲ 4,170	▲ 3,552	17,215
	6月	1,483	11,482	▲ 3,830	▲ 1,380	▲ 2,450	17,092
	7月	15,352	11,349	▲ 2,450	840	▲ 3,290	15,195
	8月	20,852	16,222	733	4,595	▲ 3,863	17,499
	9月	16,639	13,542	3,714	6,857	▲ 3,143	16,642
	10月	21,108	19,549	4,751	7,193	▲ 2,442	17,086
	11月	18,949	22,964	6,369	9,062	▲ 2,694	19,070
	12月	12,791	21,588	5,243	8,105	▲ 2,862	18,251
2021	1月	6,444	15,118	3,151	6,652	▲ 3,501	14,860
	2月	29,169	18,441	▲ 2,503	▲ 151	▲ 2,352	22,753
	3月	26,501	16,965	4,119	7,893	▲ 3,774	14,405

(出所)財務省「国際収支統計」

○３月の経常収支（季節調整値）は、第一次所得収支の上振れからの戻りを主因に黒字幅を縮小

３月の経常収支（原数値）は 26,501 億円の黒字（コンセンサス：27,647 億円の黒字、レンジ：19,500 億円の黒字～30,157 億円の黒字）となった。季節調整値では 16,965 億円の黒字（２月：18,441 億円）と先月から黒字幅が縮小した。もっとも、先月上振れた所得収支が元の水準に戻したことが主因であり、内容として悪いものではないと判断できる。

同時に発表された 2020 年度の経常収支（原数値）は＋182,038 億円の黒字となり、前年度から 7,235 億円の黒字幅縮小となった。輸入が前年度比▲13.3%と急激に減少したことを背景に貿易収支の黒字幅が拡大した一方で、サービス収支や所得収支の悪化により、経常収支は全体として黒字幅を縮小させる結果となった。

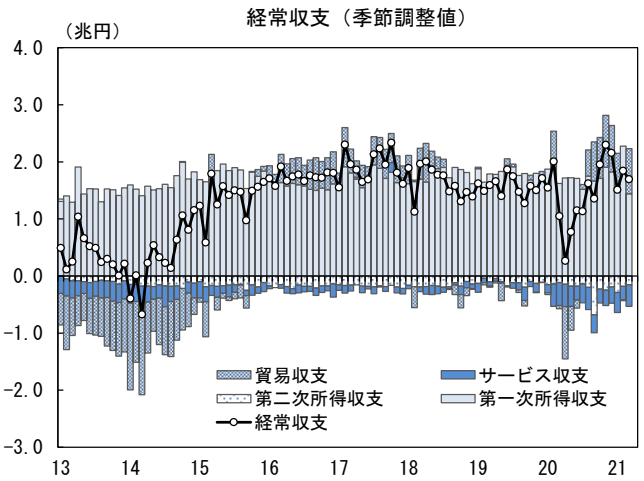
３月の経常収支（季節調整値）を項目別にみると、貿易・サービス収支は＋4,119 億円の黒字（２月：▲2,503 億円の赤字）と、貿易収支の黒字転化を主因に大きく改善した。輸出がアジア向けを牽引役として前月比＋6.1%と増加した一方で、輸入が同▲6.8%と減少したことから、貿易収支は＋7,893 億円の黒字（２月：▲151 億円の赤字）となった。

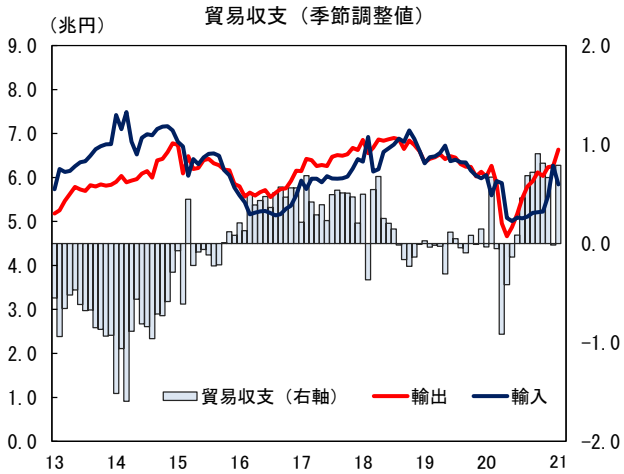
第一次所得収支（季節調整値）は＋14,405 億円の黒字（２月：22,753 億円の黒字）となった。２月の上振れから水準を戻し、黒字幅を大きく縮小させたが、海外経済の回復等を背景に回復基調は継続するものとみられる。サービス収支は▲3,774 億円（２月：▲2,352 億円）と、その他サービス収支の赤字幅拡大を主因に、先月から悪化する結果となった。ワクチンの普及に伴う経済活動正常化により、

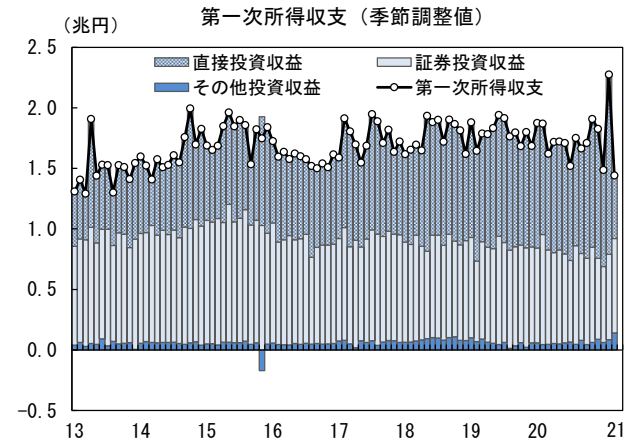
サービス収支も徐々に改善することが見込まれるが、回復ペースは緩やかなものにとどまるだろう。国内におけるワクチン接種状況を考慮すると、人の動きに対する抑制的な動きは当面継続することが見込まれ、旅行収支の底這い圏での推移が続くなど、サービス収支改善の頭を押さえる動きが続くことになるだろう。

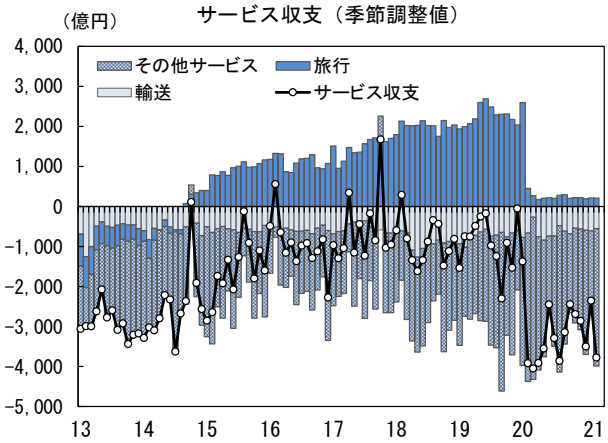
○海外経済の回復を受けて、経常収支は底堅い推移が継続

経常収支の先行きについて、所得収支については海外経済の回復を背景に堅調に推移していくことが見込まれる。為替の円安方向への推移も円建てでの所得収支押し上げの追い風になるだろう。貿易収支については、緩やかに持ち直していく可能性が高いとみている。海外経済をみると、先進国を中心としたワクチン接種の進展に伴い、徐々に経済活動が正常化に向かいつつあり、足もとでもグローバル製造業ＰＭＩが大きく改善するなど、海外経済の回復を示す統計が確認される。変異種の拡大や半導体不足などのリスク要因には注意を払う必要があるものの、海外経済の回復を背景に経常収支は世界経済の回復を背景に底堅い動きが続くことが見込まれる。









（出所）財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。